

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 女川原発の今後は	人類史上類を見ない福島原発事故から１年９カ
	月、未だに 16 万人が避難し続けている現状を見るに
	つけ、脱原発、原発ゼロの声が世論として大きくな
	っているのは当然のことであります。
	子どもを放射能から守ろうと、若いお母さん方も
	各地で声をあげています。
	また、福島原発立地町村長の多くが、福島原発事
	故の検証もせずに、大飯原発の再稼働や大間原発の
	建設工事再開に対し、福島の事故を無視した暴挙と
	批判しています。これだけの過酷事故が起きた立地
	町村長の発言だからこそ説得力があると思います。
	原発に依存しないまちづくりへの方向をしっかりと
	見定めることが必要ではないでしょうか。
	そこで次の点について伺います。
	(１) 政府の原子力委員会の試算によれば、福島事
	故と同じような過酷事故を起こす頻度が「10 年
	に 1 回」になるとした衝撃的な報告で、ますます
	不安が増大するばかりです。このことについ
	ての町長のお考えは。
	(２) 30 キロ圏内にある女川と石巻を除く 4 自治
	体（登米市、東松島市、美里町、涌谷町）の議会

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 新しいまちづくりの早期実現のために	で「女川原発再稼働反対の意見書」をあげていますが、これは30キロ圏内での避難計画か、現実的には不可能であることの表れではないでしょうか。また、本町では全町民対象のヨウ素剤の配布や、避難訓練は可能なのでしょうか。
	(3) 女川原発の今後のあり方については、町や議会だけではなく、全町民の意志を問うことが重要であると思いますが、見解を伺います。
	(質問の相手：町長)
	本町の復興まちづくり計画は、8年後の完成に向け日々努力しているところです。
	震災から1年9カ月となり、やっと宅地造成や災害公営住宅の見通しがついてきたところです。
	しかしながら、町の7割が壊滅的な被害を受けている現状を考えると、はたしてあと6年で本当に新しいまちづくりが完成するのか、6年も待ちきれず町外への転出者が増えるのではないかと、人口減少に歯止めをかけることができるのかどうか、多くの町民が心配しているところです。
	全壊した町中心部、離半島部の復興計画を進める

質問者 阿部 律子

[illegible]